

コラージュ作品における国際比較研究

札幌学院大学大学院臨床心理学研究科 佐野友泰

要 約

本研究では、主としてアジア圏の学生のコラージュ作品を収集し、国・宗教・気候・文化別の特徴的な表現傾向を捉えることを目的とした。

日本・マレーシア・タイ・インドネシア・フィリピン・モンゴル・東ティモール・カンボジアの学生にコラージュ制作を依頼し、そのコラージュ作品を比較した。なお、使用した雑誌は全ての調査協力者が同じものを使用した。

結果として、東ティモールの調査協力者が示す「人間全体」、マレーシアの調査協力者が示す「自然風景」、インドネシア・東ティモールの調査協力者が示す「文字」、インドネシアの調査協力者が示す「アクセサリー」、日本の調査協力者が示す「服飾」表現に特徴が認められた。

また、宗教・気候の要因に関しては、キリスト教国群と「人間」表現、イスラム教国群と「アクセサリー」「文字」表現、熱帯気候群・冷帯気候群と「自然風景」「食物」表現について特徴が認められた。

I. 本研究の目的

2018年の我が国の外国人留学生の数は298,980人であり（独立行政法人日本学生支援機構, 2019）、多くの留学生が大学等で学んでいる。しかしながら、守山（2019）が、“現地語の習得がうまく行かず、人々とのコミュニケーションが不良であった場合、友人や同僚にも恵まれず、またしばしば自己の意思を正確に伝達できないことで現地の人々との間で誤解が生まれ、本人もストレスを感じて社会的不適応の状況を呈する”，と指摘するように、彼らの中には精神的な問題を抱えながら、言語的な問題により十分な支援が受けられないものが存在する。彼らへの支援は、日本の受け入れ大学にとっても大きな課題となっている。

このような留学生とのカウンセリング（異文化カウンセリング）を行う際、非言語的コミュニケー

ションを用いる芸術療法の技法は、彼らの内面へのアプローチとして、またコミュニケーションを媒介するものとして重要な役割を果たすと考えられる。

芸術療法の諸技法では、慢性統合失調症者・日本の児童青年・ネパールの児童における風景構成法の特徴比較（大場, 1989）、ボルネオ島カヤン族のHTP描画様式検討（鈴木他, 1990）、日本人大学生と中国人大学生のパウムテスト比較（吉, 2006）、カメルーン、インドネシア等数カ国における樹木画の分類・特徴についての大規模な国際的比較（濱野他, 2007）、在日外国人児童とボリビア人児童のS-HTP特徴比較（田中他, 2007）、など、日本と諸外国における作品特徴の比較を通じて、日本人特有の表現特徴や文化的特徴の抽出が行われている。これらの諸研究は、日本人特有

脚注1. 本研究は2015年度札幌学院大学研究促進奨励金B（研究課題番号：SGU-BS15-204006-04）の成果の一部である。

脚注2. 本研究の一部は、2014年、2015年、2016年、2018年、2019年に日本心理臨床学会大会にてコラージュ作品の国際的比較I-Vというタイトルで発表を行った。

の表現特徴を見出すことで、日本人が制作した諸技法の標準形態を示すとともに、比較文化的な研究意義が存在すると考える。

筆者は、実施に対する抵抗が描画より少ないという点より、コラージュ技法に着目し、居住地の気候要因によるコラージュ作品の相違を検討するため、「居住する気候条件の相違がコラージュ作品に与える影響～日本学生・タイ学生のコラージュ作品の比較検討～」というテーマで、2012年度に日本（札幌）とタイ（チェンマイ）における学生のコラージュ作品の比較を行った。そして、これらのコラージュ作品の比較分析を行ったところ、「服装」「料理」「文字切抜き」など数項目において、日本とタイの学生の作品における相違点が示された（佐野，2013）。

気候条件の異なる日本とタイの学生のコラージュ表現にいくつかの相違が認められ、かつ芸術療法の諸技法の国際比較より、日本人の表現における文化的特徴が見いだされたことより、筆者は気候・文化の異なる国々の芸術技法の表現に一定の相違があるのではないかという考えに至った。

また、箱庭や絵画において、制作者の宗教的な表現が認められることは、様々な研究者によって指摘されている（岡田，2006；安福，1989）。

そして、留学生を対象とした異文化カウンセリングを行う際に、コラージュ技法を用いる場合、国・宗教・気候・文化別の特徴的な表現傾向を把握しないと、彼らの内面世界を誤って把握してしまう可能性がある。

したがって本研究では、主としてアジア圏の学生のコラージュ作品を収集し、国・宗教・気候・文化別の特徴的な表現傾向を捉えることを目的とする。

本研究より一定の表現傾向を示すことができれば、異文化カウンセリングでコラージュ療法を行う際に、彼らの内面を理解するための基礎資料を提示することができると考えられる。

Ⅱ. 方 法

1. 調査協力者

調査協力者は以下8か国の大学学部生である。なお、フィリピンは教育制度の相違により、学部

学生の平均年齢が低くなっている。

日本群（以下Ja群と表記）45名（男性25名，女性20名，平均年齢18.70，SD0.78）

マレーシア群（以下Ma群と表記）36名（男性12名，女性24名，平均年齢21.30，SD1.19）

タイ群（以下Th群と表記）28名（男性7名，女性21名，平均年齢19.80，SD0.40）

インドネシア群（以下In群と表記）31名（男性10名，女性21名，平均年齢19.10，SD0.94）

フィリピン群（以下Ph群と表記）34名（男性13名，女性21名，平均年齢17.10，SD0.70）

モンゴル群（以下Mo群と表記）34名（男性9名，女性25名，平均年齢19.10，SD0.94）

東ティモール群（以下Et群と表記）32名（男性9名，女性23名，平均年齢21.70，SD1.90）

カンボジア群（以下Ca群と表記）34名（男性10名，女性24名，平均年齢22.10，SD2.02）

本研究で上記8か国を選択した理由であるが、熱帯である東南アジアから仏教（タイ・カンボジア）、キリスト教（フィリピン・東ティモール）、イスラム教（マレーシア・インドネシア）を信仰するものが多い国のバランスを考慮した。また、寒冷地との比較として仏教を信仰するものが多いモンゴル・日本（北海道）も調査対象とした。なお、各国30名程度の調査協力者の数であるが、この数は、雑誌を安全に送付できる上限の数と重量を考慮して決定している。

なお、分析の都合上、タイ群とカンボジア群を「仏教国群（以下Bu群と表記）」、フィリピン群と東ティモール群を「キリスト教国群（以下Ch群と表記）」、マレーシア群とインドネシア群を「イスラム教国群（以下Is群と表記）」として扱い、タイ群とカンボジア群を「熱帯気候群（以下Tr群と表記）」、日本群とモンゴル群を「冷帯気候群（以下Co群と表記）」として扱った。

2. 手 続 き

各大学に筆者が赴き、データ収集を行った。調査協力者は予め当該大学の教員に依頼し、調査協力意思のある学生を募集した。筆者は現地語通訳を通じ、「調査利用のお願い（当該国の言語に翻訳）」を配布し、文書および口頭にて調査意図を

説明した。

その後、「調査協力同意書（当該国の言語に翻訳）」に記入を求め、「これら雑誌から好きな物、気になるものを切り取って台紙に張りつけてください。」という通訳の現地語による教示で、八つ切り白画用紙を用いてコラージュ作品を制作してもらった。その際に、研究協力を断ったり、中断したりする自由については特に細心の注意を払って文書及び口頭にて説明した。コラージュの制作環境については、各国により相違があるが、概ね大学の教室にて集団にて制作を行った。

また、コラージュ作品の裏には性別・年齢・信仰する宗教・今までもっとも長く居住した地域の市区名および当該地域の居住年数の記入を求めた。謝礼については、データ収集先大学の教員との事前打ち合わせにより、日本円にして500円程度の価値の謝礼金もしくは謝礼品を配布した。

なお、本研究は札幌学院大学大学院臨床心理学研究科研究倫理審査委員会において、研究倫理に関する承認を受けた（申請番号：臨1307, 承認日：2013年6月12日）。

3. コラージュ制作のための素材

使用する雑誌は統制し、「FINEBOYS（2013年6月発行号）」「mina（2013年6月発行号）」の2雑誌および「通信販売の日常生活雑貨カタログ」の3種を人数分送付し使用した。2雑誌の選択理由であるが、筆者が本研究の準備を開始した2013年時点で、比較的売上げが多く、付録のついていない雑誌を選択した。

また、これらの雑誌ではやや不足していた風景の切り抜きについて、フリーの素材集から風景に関する写真24点を選択し、別刷りとして配布し使用した（素材集からの写真利用については、著作権保有者に個別に連絡し、研究目的を説明した上で使用許可を得ている）。

Ⅲ. 結 果

1. 集 計

全調査協力者のコラージュ作品について、加藤（2005）、岩岡（2010）を参考に「全切抜き数」・「人間全体」・「人間部分」・「動物」・「植物」・「食

べ物」・「自然風景」・「細工」・「文字」・「アクセサリ」・「化粧品」・「服飾」・「漫画・アニメ」・「四角形」・「多角形」・「輪郭・楕円融合」・「円・楕円」・「完全輪郭」・「不定形」・「手ちぎり」の20項目をカウントした。なお、細工とは、写真とは関係なく雑誌の一部を切り抜き、貼り付けていくものである。一見するとちぎり絵のような表現にも思えるものである。また、ひとつの切り抜きに人間全体と植物が存在した場合は、両項目をカウントした。

2. 分析① 国ごとのコラージュ作品の比較

各群（各国）の要因を独立変数、20項目それぞれを従属変数とする一元配置の分散分析を行った。なお、「全切抜き数」以外の分析項目については、各項目の「全切抜き数」に対する割合を算出し、逆正弦変換を行った値を用いて分析を行った。

3. 分析② 宗教・気候に関するコラージュ作品の比較

「Bu群」, 「Ch群」, 「Is教国群」という宗教の要因を独立変数、20項目それぞれを従属変数とする一元配置の分散分析を行った。また、「Tr群」, 「Co群」における20項目の平均値について t 検定を行った。なお前分析と同様、「全切抜き数」以外の分析項目については、各項目の「全切抜き数」に対する割合を算出し、逆正弦変換を行った値を用いて分析を行った。

4. 分析① 結果

事後の検定力分析を行い、 $1-\beta$ が0.8以上の結果のみTable1に示した。「全切抜き数 (Ma>Mo, Ph / Th>Ja, In, Mo, Et, Ca / Ph>Mo / Ma, Th, Ph>Et)」, 「人間全体 (Et>Ja, Ma, Th, In, Mo, Ca)」, 「人間部分」, 「植物 (Ja>In, Et, Ca)」, 「自然風景 (Ja, Th, Mo, Ph>Ma / Mo>Ma, Et, Ca / Ja, Mo, Ph, >Et)」, 「細工 (Th>Ja, Ma, In, Mo, Et, Ca)」, 「文字 (In>Ja, Ma, Th, Mo, Ph, Et / Et>Ja, Th, In, Ph, Ca)」, 「アクセサリ (In>Ja, Ma, Th, Mo, Ph, Et / Ma>Mo, Ph / Ca>Ph)」, 「服飾

Table1. 国別の分散分析結果

従属変数	Ja	Ma	Th	In	Mo	Ph	Et	Ca	$F(Es:f, I-\beta)$	多重比較($p<0.05$)
全切抜き数	14.27 (8.04)	19.29 (4.96)	21.18 (15.01)	14.19 (5.86)	10.91 (4.14)	19.47 (7.09)	9.00 (3.59)	14.09 (6.12)	10.84** (0.55,1.00)	Ma>Mo,Ph / Th>Ja,In,Mo,Et,Ca / Ph>Mo / Ma,Th,Ph>Et
人間全体	0.12 (0.14)	0.08 (0.10)	0.11 (0.16)	0.09 (0.11)	0.05 (0.07)	0.12 (0.13)	0.30 (0.25)	0.09 (0.11)	8.70** (0.48,0.99)	Et>Ja,Ma,Th,In,Mo,Ca
人間部分	0.15 (0.20)	0.06 (0.07)	0.15 (0.19)	0.08 (0.07)	0.10 (0.14)	0.14 (0.16)	0.17 (0.16)	0.10 (0.18)	2.34* (0.25,0.86)	
植物	0.13 (0.22)	0.06 (0.07)	0.05 (0.09)	0.03 (0.05)	0.07 (0.21)	0.05 (0.11)	0.01 (0.03)	0.06 (0.13)	3.13** (0.29,0.95)	Ja>In,Et,Ca
自然風景	0.27 (0.33)	0.02 (0.04)	0.26 (0.22)	0.17 (0.12)	0.32 (0.22)	0.28 (0.29)	0.09 (0.22)	0.12 (0.17)	8.21** (0.46,0.99)	Ja,Th,Mo,Ph>Ma / Mo>Ma,Et,Ca / Ja,Mo,Ph,>Et
細工	0.06 (0.13)	0.01 (0.04)	0.21 (0.34)	0.00 (0.00)	0.03 (0.11)	0.11 (0.25)	0.00 (0.00)	0.01 (0.06)	6.43** (0.41,0.99)	Th>Ja,Ma,In,Mo,Et,Ca,
文字	0.17 (0.22)	0.21 (0.19)	0.10 (0.13)	0.60 (0.40)	0.23 (0.21)	0.12 (0.14)	0.37 (0.32)	0.14 (0.21)	15.22** (0.63,1.00)	In>Ja, Ma, Th, Mo, Ph, Et / Et>Ja,Th,In,Ph,Ca
アクセサリ-	0.06 (0.12)	0.15 (0.14)	0.06 (0.10)	0.16 (0.12)	0.05 (0.10)	0.02 (0.05)	0.10 (0.15)	0.12 (0.15)	5.54** (0.38,0.99)	In>Ja,Ma,Th,Mo,Ph,Et / Ma>Mo,Ph / Ca>Ph
服飾	0.04 (0.09)	0.22 (0.19)	0.07 (0.09)	0.17 (0.15)	0.17 (0.19)	0.11 (0.14)	0.21 (0.20)	0.20 (0.20)	6.72** (0.42,0.99)	Ma,In,Mo,Et,Ca>Ja / Ca,Et,Ma>Th
四角形	0.32 (0.38)	0.33 (0.43)	0.26 (0.30)	0.77 (0.49)	0.63 (0.43)	0.35 (0.23)	0.45 (0.56)	0.41 (0.47)	5.44** (0.37,0.99)	In>Ja,Ma,Th,Ca / Mo>Ja,Th
輪郭・楕円融合	0.16 (0.28)	0.33 (0.42)	0.31 (0.39)	0.09 (0.20)	0.09 (0.22)	0.14 (0.25)	0.30 (0.43)	0.14 (0.31)	3.15** (0.28,0.95)	
完全輪郭	0.31 (0.38)	0.25 (0.41)	0.29 (0.38)	0.07 (0.17)	0.20 (0.31)	0.23 (0.32)	0.11 (0.25)	0.50 (0.58)	4.36** (0.33,0.99)	Ca>In,Mo,Et
手ちぎり	0.00 (0.01)	0.01 (0.04)	0.05 (0.21)	0.00 (0.00)	0.00 (0.00)	0.00 (0.11)	0.00 (0.00)	0.00 (0.00)	2.35* (0.25,0.86)	Th>Ja,In,Mo,Et

※1. 各国の列の数値は平均値であり、括弧内の数値はSDである。なお、多重比較列の空欄は、有意差が認められた組み合わせが無いことを示す。
 ※2. ** $p<0.01$, * $p<0.05$

Table2. 宗教別の分散分析結果

従属変数	Bu	Ch	Is	$F(Es:f, I-\beta)$	多重比較($p<0.05$)
人間全体	0.08 (0.12)	0.22 (0.30)	0.09 (0.11)	12.45** (0.33,0.99)	Ch>Bu,Is
人間部分	0.11 (0.17)	0.16 (0.16)	0.07 (0.07)	6.45** (0.24,0.90)	Ch>Bu
自然風景	0.23 (0.22)	0.19 (0.28)	0.09 (0.12)	8.55** (0.26,0.97)	Bu,Ch>Is
文字	0.16 (0.20)	0.24 (0.28)	0.38 (0.35)	12.58** (0.33,0.99)	Is>Bu,Ch
アクセサリ-	0.08 (0.12)	0.06 (0.12)	0.15 (0.13)	9.91** (0.30,0.98)	Is>Bu,Ch

※1. 各群の列の数値は平均値であり、括弧内の数値はSDである。
 ※2. ** $p<0.01$

(Ma, In, Mo, Et, Ca>Ja / Ca, Et, Ma>Th)], 「四角形 (In>Ja, Ma, Th, Ca / Mo>Ja, Th)], 「輪郭・楕円融合」, 「完全輪郭 (Ca>In, Mo, Et)], 「手ちぎり (Th>Ja, In, Mo, Et)」の13項目で主効果が認められた。括弧内は、Tukeyの方法による多重比較において、5%水準で有意差の認められたものを示している(群表記を略した)。

5. 分析② 結果

宗教別の分散分析に関して、事後の検定力分析を行い、 $I-\beta$ が0.8以上の結果のみTable2に示した。「人間全体 (Ch>Bu, Is)], 「人間部分 (Ch>Bu)], 「自然風景 (Bu, Ch>Is)], 「文字 (Is>Bu, Ch)], 「アクセサリ- (Is>Bu, Ch)」の5項目で主効果が認められた。括弧内は、Tukeyの方法による多重比較における5%水準で有意差の認められたものを示している。また気候別の t

Table3. 気候別の t 検定結果

従属変数	群	平均	SD	$t(Es;d, 1-\beta)$
自然風景	Co	0.30	0.29	2.56*(0.50,0.83)
	Tr	0.18	0.20	
食物	Co	0.05	0.10	-2.14*(0.90,0.99)
	Tr	0.13	0.29	

* $p < 0.05$

検定に関して、事後の検定力分析を行い、 $1-\beta$ が0.8以上の結果のみTable3に示した。その結果、「自然」に関してCo群がTr群より多く、「食物」に関してはTr群がCo群より多いという結果を得た。

IV. 考 察

1. 国別のコラージュ表現について

本結果では多方面にわたる結果を得た。切り方などの形式的側面については、「どうしてそのような表現を行ったのか」という質問に対する答えが、その特徴を大きく意味づける。しかしながら、本研究では言語的な課題より調査協力者へのインタビューを行うに至らなかった。そこで、4か国以上に比して多いあるいは少ない、またいかなる切り抜きを貼ったかという内容的側面について考察対象とし、環境との関わりに焦点を当てつつ考察したい。

① 東ティモールの調査協力者が示す「人間全体」表現について

Et群は、Ja群、Ma群、Th群、In群、Mo群、Ca群に比して「人間全体」の切り抜きが多かった。本研究の調査場面は、臨床場面とは異なるため、このコラージュ表現が深く個人の内面を示しているとはいえないであろう。従って、人間全体という切り抜きは、表層的な人間への関心を示していると考えられる。東ティモール共和国は、2002年に独立を果たし、現在も発展中の若い国家である。その過程において井上（2009）が指摘するよう、個人の権利・人権に国民の注目が集まっていると考えられる。この個人の権利への関心が人間への関心として現れたのではないかと考える。

② マレーシアの調査協力者が示す「自然風景」表現について

Ma群はJa群、Th群、Mo群、Ph群に比して「自然風景」に関する切り抜きが少ないことが示され

た。マレーシア都市部では、特に2000年まで経済成長や地方からの人口流入が著しく（新井、2009）、非常に発展が進んでいる。このような経済の流れが、自然というものへの表面的な意識を減じ、本結果を導いた可能性もあろう。

③ インドネシア・東ティモールの調査協力者が示す「文字」表現について

In群はJa群、Ma群、Th群、Mo群、Ph群、Et群より「文字」の使用が多く、同様にEt群はJa群、Th群、In群、Ph群、Ca群より「文字」の使用が多いという結果が示された。ここでいう「文字」の切り抜きとは、本研究で用いられた雑誌により、ほとんどが日本語の文字であった。写真のみならず、日本語が自分のコラージュの中にあっても問題ないと考えたことが推測される。中には日本語の特定のメッセージを貼り付けているコラージュも見受けられた。私たちが他国の文字を学んだり、使用することは、対象の文字を用いる文化に興味関心がある場合も多い。インドネシア、東ティモールは両国とも親日家であることが報告されており（佐藤、2002、大野、2017）、この日本への距離感の近さが本結果として現れたものと推測する。

④ インドネシアの調査協力者が示す「アクセサリー」表現について

In群はJa群、Ma群、Th群、Mo群、Ph群、Et群に比して、「アクセサリー」の切り抜きを使用する割合が高かった。野中（2017）は、インドネシア女性のインタビューより、インスタグラムなどのSNSを日常的に利用して、情報発信をしたり、またヴェールや服装に関する情報を得たりしていることや、多くの女性たちが、一般の服を組み合わせ、イスラームの教えに合うコーディネートを作り出していると指摘している。また、インドネシアには様々なアクセサリーの細工技術が伝統として存在している。これらの事柄が、アクセサリーのイメージとして現れたとも考えられる。

⑤ 日本の調査協力者が示す「服飾」表現について

Ja群はMa群、In群、Mo群、Et群、Ca群に比して「服飾」の切り抜きを貼る割合が低かった。これは筆者が用意した雑誌の要因によるものが多いと考える。Ja群の調査協力者にとっては、今回

材料として配布された雑誌は日常見慣れたものである。そこでそれらの雑誌の中からバランスよく興味のあるものを貼っていったため、「自然」、「服飾」、「アクセサリー」、「植物」、「食物」などが満遍なく用いられていた。このことが、他国の調査協力者のコラージュに比して、本項目が少なくなった要因であると考えられる。

2. 宗教・気候別のコラージュ表現について

① キリスト教国群と「人間」表現、イスラム教国群と「アクセサリー」「文字」表現について

Ch群はBu群、Is群に比して「人間全体」が多く、Ch群はBu群に比して「人間部分」が多いという結果から、キリスト教群は他の群より人間に関する切り抜きを多く用いるといえよう。

キリスト教の人間観について竹内(2017)は、人間は「身体」を通じて世界を経験し、他者と関わりと述べその関係性を重視している。コラージュ表現も自分自身の表現であり、言い換えると自分から他者や世界とのメッセージと考えられる。「身体」を通じて他者と関わるキリスト教の人間観が、人間の表現としてコラージュ上に現れたものと考えられる。

また、Is群はBu群、Ch群に比して「文字」「アクセサリー」の切り抜きが多いという結果が認められた。前述したインドネシアの調査協力者がアクセサリーを用いた点で考察したように、イスラームの文化特性と本項目は関連があると考えられる。しかし、本研究のIs群にはインドネシア・マレーシアという2か国の調査協力者が含まれている。青山(2006)はこの両国におけるイスラームの制度的相違について指摘しており、コラージュ表現の本結果における解釈も安易に画一化することに疑問を感じるため、今後の課題として残したい。

② 熱帯気候群・冷帯気候群と「自然」「食物」表現について

さらには、Co群はTr群に比して「自然風景」の切り抜きを多く用い、Tr群がCo群に比して「食物」の切り抜きを多く用いることが明らかとなった。環境的な視点から見ると、寒冷気候群では、

主として寒さという自然環境に、常に気を配らなくては生活が成り立っていかない。また、熱帯気候群では、パパイヤやバナナなど食物となる植物が居住地近くに存在している。これらの要因が「自然風景」「食物」として表見されたのかもしれないが、これはあくまでも仮説の域を出ない。具体的に何が貼られているかも含め、今後の検討が必要であろう。

V. まとめと本研究の課題

本研究では異文化カウンセリングにおける非言語的技法において、解釈のための基礎資料を蓄積することを目的とし、アジア8か国のコラージュを収集、分析した。その結果、国別、宗教別、気候別にいくつかの特徴を見出すことができたと考えられる。しかしながら、本論中にも述べたように、制作者の感想を得られなかったこと、宗教的観点からのコラージュ理解を深められなかったことにより、作品に対する踏み込んだ考察に至らなかった。今後は、これらの点に留意しつつ改めてデータ収集と分析を重ねていきたい。

謝 辞

本研究を遂行するにあたり、東ティモール JICA事務所の松元秀亮氏には多大なご協力を賜りました。心よりお礼申し上げます。

文 献

- 青山享(2006): 東南アジアにおけるイスラームへの視点—イスラームの普遍性と地域の多様性— 南太平洋海域調査研究報告, 43, 3-14.
- 新井敬夫(2009): マレーシアの経済発展と「格差」問題 亜細亜大学アジア研究所紀要, 36, 155-170.
- 独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)(2019): 平成30年度外国人留学生在籍状況調査.
- 濱野清志・杉岡津岐子・江口一久・小野芳彦・仁木一栄・杉岡信行・新免光比呂・朱捷(2007): 樹木画テストの発達指標の普遍因子と文化による固有因子の抽出への試み 平成15年~18年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)研究成果報告書.

- 井上浩子（2009）：東ティモールの独立過程に見る人権と自決権の関わり：自決の正統性を巡って 龍谷大学国際社会文化研究所紀要, 11, 152-167.
- 岩岡眞弘（2010）：コラージュ表現における集計調査研究－高校生を中心に－(1) 日本芸術療法学会誌, 40(1), 27-34.
- 吉沅洪（2006）：日中大学生の描画特徴, パーソナリティ特性比較と文化－バウムテストを用いた実証的研究－ ころと文化, 5(1), 52-62.
- 加藤大樹（2005）：高校生のコラージュ作品に関する研究－学級適応・性格の観点からの検討－ 日本芸術療法学会誌, 34(2), 23-32.
- 野中葉（2017）：信じること・装うこと－インドネシア人女性たちのヴェールと服装 Contact zone, 9, 279-303.
- 岡田敦（2006）：表現療法技法としてのフィンガーペインティング－精神科臨床における適応とその実際－ 椋山女学園大学研究論集（人文科学篇）, 37, 67-88.
- 大場公孝（1989）：慢性分裂病者の風景構成法における表現精神病理学的研究－日本の児童・青年およびネパールの児童との比較による－ 東京医科大学雑誌, 47(5), 736-745.
- 大野俊（2017）：東ティモール人の対日認識－日本の軍事占領と官民の支援の影響を中心に アジア太平洋研究センター年報, 14, 2016-2017, 40-47.
- 佐野友泰（2013）：日本・タイにおける大学生のコラージュ作品の比較 日本心理臨床学会第32回秋季大会.
- 佐藤由利子（2002）：日本の留学生政策のインドネシアにおける影響－親日家養成の観点から日本評価研究, 2(2), 59-78.
- 鈴木康一・飯森真喜雄・大場公孝・三浦四郎衛・津上誠（1990）：ボルネオ島カヤン族に施行したHTPテスト 表現精神病理学への一寄与 日本芸術療法学会誌, 21(1), 99-108.
- 竹内修一（2017）：キリスト教における人間観 生命と倫理, 4, 上智大学生命倫理研究所, 57-67.
- 田中ネリ・阿部裕・井上孝代・岩木エリーザ（2007）：S-HTPにみる在日外国人児童のころ－ボリビア人児童との比較 明治学院大学心理学部附属研究所紀要, 5, 15-31.
- 安福純子（1989）：箱庭療法に関する基礎研究－青年の箱庭表現について－ 大阪教育大学紀要第4部門, 38(1), 99-109.
- 守山正（2019）：在日外国人の社会的不適応 日立財団Webマガジン「みらい」, 3, 1-17.

Abstract

The International Comparison on Collage Works

SANO, Tomoyasu

In this study, we collected collage works made by the Asian students to find Characteristic expression tendency by the differences from nation, religion and climate.

We asked university students in Japan, Thailand, Malaysia, Indonesia, Mongolia, Philippines, East Timor and Cambodia to make collage works and compared their works. Note that all students used the same magazines.

As a result, we can find the features in “the whole human body” expressions by East Timor’s students, “Nature Landscape” expressions by Malaysian students, “letters” expressions by Indonesian and East Timor’s students, “Accessories” expression by Indonesian students and “Clothing” expression by Japanese students.

And, regarding the factors of religion and climate, we can find the features in “Human” expressions by Christian students, “Letters” and “Accessories” expressions by Islam students and “Nature Landscape” and “Food” expressions by the groups of students in cold or tropical regions.